



シャンボチエからタムセルク峰 6,623m (06年12月)

カトマンズ今日この頃

ビスターレ・ジャノス

第4・5合併号
2007年2・3月

1. カトマンズつれづれ

ネパールのビクラム暦の第10月マーズ月に入りカトマンズ盆地の霧がいつそう濃くなった。朝8時前に家を出て事務所に向かうが、視界は50m程度であろうか。今冬は寒さが遅れているらしい。12月は例年になく暖冬で農家では軟弱葉物野菜の白菜が芯から腐ってきたとこぼしている。そういえばヒマラヤの山々も心なしか雪が少ないように見える。氷河も短くなっているという地球規模の温暖化の警鐘が当地でも報じられている。

《バサンタパンチャミ》

第9月のポウシュ月(12月16日～1月14日)はネパールの人たちにとってあまりハッピーな月ではない。寒さのあまりすべての活動が停滞するからだろうか。第10月のマーズ月1日はマーズ・サン

クランティを祝う。朝早く身を清めビシュヌ寺院に詣でる。蒸した山芋や、サトウキビの粗糖、ごまで作った菓子を食べる。事務所のネワール族の職員が当日もって来てくれた。

マーズ月9日（1月23日）バサンタパンチャミでありサラスワティ女神に祈りをささげる祭りである。バサンタとは春を意味する。この日を境に季節は春めいてくる。寒さから解放された人々は表情も明るく、町も華やぎだす。カトマンズの旧王宮広場では例年国王が著名人を招いてお祝いをする。軍楽隊が古楽器で伝統音楽を奏でる。国王が蟄居状態の今年はいかなる催しとなるのか注目されたが、例年の通り実行されたようだ。ただし報道写真の国王はまったく精彩を欠いた表情であった。時としてマスコミは意地悪なことをするものである。

サラスワティは知恵と学問、芸術の神であり、この日、スワヤンブ寺院やラジンパットのニル・バラヒ寺院に、学生や教師、芸術家が参拝する。筆者はこの日スワヤンブにいった。参道の石段は急で長い。混雑に押し上げられるように登る。祠の前もまたお供え物をもった善男善女で長蛇の列である。写真のように額にティカをつけてもらって祝福を受ける若い女性が目立った。

マーズ月からは春のお祭りが続く。2月にマハ・シバラツトリ（シバ神の夜祭）にパシュパティナート寺院にはインドからも多くの信者が集まる。チベット正月のロサルもこの月にある。チベット人やシェルパ族が祝う。3月には色と水のお祭りホーリーが来て、いよいよ初夏の様相を呈する。今年は例年のように急激に気温が上がっていないような気がするが、朝のベッドから起きやすい気候になってきた。



知恵と学問の神サラスワティ



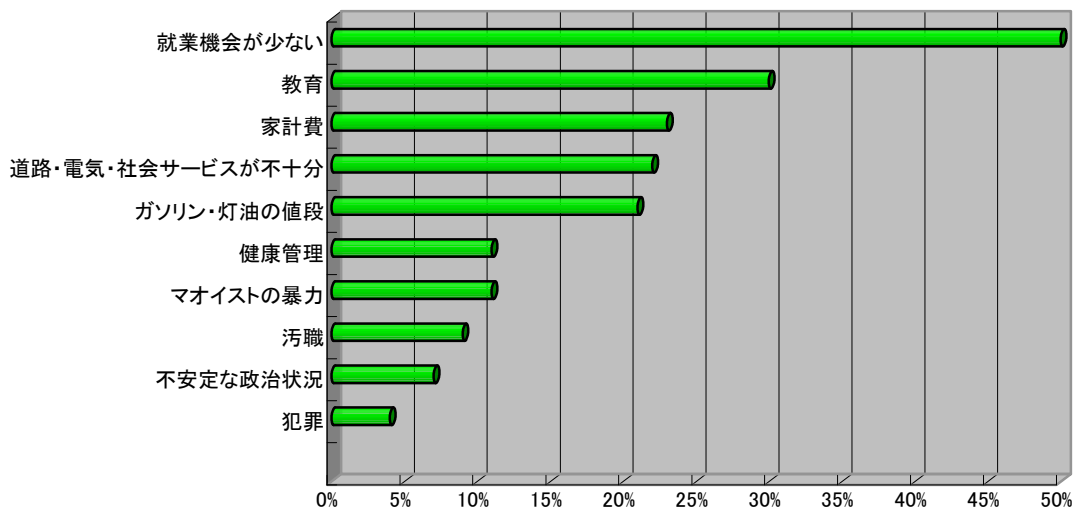
スワヤンブのサラスワティ寺院前でティカを受ける少女

2. ネパールこんなこと

《世論調査の現実味》

第1号のこの項で06年8～9月にかけて実施した政治向き世論調査の結果をお伝えしたが、同時期に生活意識が調査されており結果が興味を引く。「次の中から日常生活で関心のある2項を選びなさい」との設定で、以下のグラフが結果である。世論調査から半年もたっしまい世情も大きく変化したが、生活実感はあまり変化ないものと思われる。

日常生活の関心事を2項目選択



【**就業機会が少ない**】がダントツで50%をマークしている。国内産業の伸びが低迷しているため、大学を出ても職はないし、農村ばかりでなく都市部の潜在失業率も高いものと思われる。いきおい単純労働の海外への出稼ぎとして中近東、マレーシア等へ出る。西部平野部地方ではインドへの季節労働者が増加している。海外からの送金額はGDPの13%をしめ、外貨準備高は貿易決済の10ヶ月を超える。しかしながら、政治の季節に経済がないがしろとなっており、国民の不満を解消する施策はいまのところ期待できない。

【**教育**】への関心が30%で第二位である。80年代半ばに、カトマンズでは教育熱が高まり私立学校が増えたが、ここ数年の間に高等教育にも小規模の私立校が林立し不完全な施設と乏しいカリキュラムで経営を競っている。上記のごとく国内での就職が困難なため、海外留学の後その国で就職を志向する若者が増え、留学紹介ビジネスが海外就労斡旋ビジネスとともに華やかな宣伝を繰り返している。小規模の学校経営が成り立つのも、留学ビジネスからのリポートが一助となっているという人もある。

【**家計費**】の関心が23%であるのは意外と低いように思える。都市部に限っていえば、もっと高く出るのはないだろうか。給与生活者の多い都市部では、消費者物価の値上がりがかたえていると思われる。食品の値上がりを中心に、今年のインフレ率は二桁になるとの懸念も取りざたされている。ネパールが貿易額の半分以上を依存している隣の大国インドでは、公定歩合を上げて過熱ぎみの経済を調整し始めたが、ネパールの金融当局の動きはない。

【**インフラ、社会サービスが不十分**】であることへの不満が大きいのは、慣れっこになっている割には高い感じがする。穴だらけの舗装道路はそれほど感じないだろうが、電力不足による計画停電には都市部の住民はこたえるだろう。今乾季はカトマンズで週40時間の停電である。農村部の人々にとっては、都市部に比較すると別の国であるかのような低劣なインフラ状況への不満であろう。地方の医療サービスは、薬品さえ満足にそろっていないのが現状である。

【**ガソリン、灯油の値段**】は都市部の不満であろう。化石燃料は全量インドからの輸入であるが、輸入元の石油公社は政策的に値上げすることができず、累積赤字でインド石油公社への支払繰り延べしてもらって有様である。9月に抜き打ちで値上げしたが、民衆の抗議行動により一日で撤回、その後小売（スタンド）のマージン引き下げを発表したものの、小売側の不売ストライキにあいこれも撤回する始末である。しかしながら、ネ印両公社の財政事情をみると、どちらが先かは別として、値上げに踏み切らざるを得なくなるものと思える。

【**健康管理**】については、ネパールでも都市部で健康ブームである。朝早く中高年の夫婦が町をウォーキングしているのを見かける。アスレチックジムのビジネスも繁盛している。油の摂取量が多い

この国の人は、肥満は農村部では数少ないが、都市部の運動量の少ない層に多い。恰幅のよさを重んずる、あるいは女房を太らせて見栄を張る習慣は少なくなっているように思われるのだが。

【マオイストの暴力】が低位にあるのは、脅威も10年続くと諦めが先にたつのか、あるいは和平交渉の開始が国民を楽観的にしているのか、たぶん後者であろう。

【不安定な政治】、【民主主義】が低いのは、1990年の民主化以来、政党に裏切られ続けた人々の「しらけ」なのだろうか、「花より団子」の生活感からだろうか。【汚職】、【犯罪】も同様に皮膚感覚として小さいものと思われる。

人々の生の声を紹介したが、都市と農村、年齢層別の傾向が分かればいっそうネパールを理解するのに役にたったと思われる。上記のつたない分析からイメージを膨らませていただければありがたい。

3. ネパールのうごき (2007年1月)

《政治》

15日暫定議会が始まった。この日のハイライトのその後の動きを時間を追ってみてみる。午後3時：73人のネパール共産党毛沢東主義派(CPN-M)が院内政党控室に登庁、3時50分：CPN-M プラチャンダ議長が控室に、報道写真では満面の笑み、7時45分：昨年4月に再開された議会が暫定憲法を無修正で採択、8時30分：議会解散、8時40分：暫定憲法下の新議会召集、9時30分：議員宣誓、10時30分：首相退場、11時40分：新議会が暫定憲法批准。今後の政治日程はマオイストを含めた暫定内閣組閣にうつる。

国連によるマオイストならびに政府軍の武器兵士管理が始まる。

テライ地方では、サドババナ党の民族自立運動に端を発し、マオイスト分派の政治団体がゼネストによる暴力的政治手法を取り始める。

《経済》

4日に中央銀行の2005/06年第一四半期のマクロ経済報告があった。通貨供給量(M1)の増加が前年同期比3.9%であり、継続的な海外出稼ぎ送金と銀行の経営健全化による貯蓄増を理由としている。消費者物価指数は、11月に年率で7.1%と前年の8.5%と比べて低下しているが、3月の石油製品価格の上昇および、豆類(24.2%)、生鮮野菜、果物(16.3%)、スパイス(22.4%)が物価押し上げ要因となった。財政収支は、支出が前年同期比9.9%と増加したが政府職員の賞与支給によるものであり、支出は20.3%と大幅に増加したが、海外送金増による消費拡大が要因となり付加価値税、物品税収入が増加したことによる。収支バランスは42億ルピーの赤字である。経常収支は輸出の減少と輸入の増加によって赤字が15.8%増加した。対インド貿易の赤字拡大によるものである。国際収支は8千万ルピーの黒字(前年同月：43億ルピー)であり、11月末の対7月末比で外貨準備高はドルベースで2.1%増加し貿易決済の10.6ヶ月(前年同期：8.7)と増加を続けている。

《社会》

テライ地方で民族自治運動が活発化していることと、マオイストシンパとマオイストから分離したテライ諸政治グループの間で暴力的衝突が増加している。東西ハイウエー等幹線道路で交通封鎖が続いており経済への影響がじわじわと出始めよう。

《経済協力・NGO》

在ネパールの11の二国間援助機関(JICAを含む)が14項目の運営ガイドラインを発表した。概略次の通りである。

1. 支援の主目的は、基本的ニーズの充足やコミュニティの自立に向けた貧困の低減、
2. 地元の干渉されない願望をもって支援し、彼らの尊厳、文化、宗教、習慣を尊重する、
3. 極限の生活を強いられる人々を支援の対象とし、優先事項は政治、民族、宗教の問題にとらわれない、
4. 支援は明瞭に貧困社会のための計画を実行し、それらを必要とする人々に対し開発資源を提供する責任をもつ、
5. 性差、民族、カースト、宗教による差別や社会的排除に取り組む、
6. スタッフ採用に当たっては安定と能力を基本とし政治そのものの配慮をしない、
7. 暴力、誘拐、嫌がらせ、脅迫またはいかなる形での脅威を与えるスタッフや開発パートナーを受け入れない、
8. スタッフに核となる価値や原則を無理強いさせる場では作業しない、
9. いかなる軍事的、政治的または宗教的に利用される支援はしない、
- 10.

政党に貢献するようなことをせずまた献金もしない、11. 援助機関が所持する資産、車両を計画目的以外には使用せず、車両は武器、兵士の輸送には使用しない、12. 援助物資の窃盗、流用、誤使用を許さない、13. 開発計画に携わるすべての人たちの活動を妨げないように強く促す、14. すべての関係者に国際人権法を遵守し人権を尊重するよう期待する。

《今月の主な出来事》

政治	
3日	ネパール水道公社法改正案が議会を通過、民営化へ マオイストのブラチャンダ議長がテライ地方の警察署再建に合意
5日	最高裁判事会議は暫定憲法草案の修正を要求、司法の独立を求める
8日	国連武器管理監視団が作業を開始
9日	8政党が暫定議会の残り48議席の配分に合意 統一共産党が民主テライ解放戦線(JTMM)ゴイト派に話合いを呼びかけ
10日	セルチャン副首相は民主テライ解放戦線シン派と話合いをもたないと表明 マオイスト幹部がインドのマオイストと協調ない、今後その他の革命戦線と関係を持たないと表明
11日	カイラリ郡の被抑圧カースト婦人協会が暫定議会の議席を要求 国連のバン事務総長が安保理に186人の国連ミッション派遣を提案 マオイストがクリシュナ・マハラを筆頭に73人の暫定議会議員を発表
12日	警察当局が前内相カマル・タパを議会証言のため拘束、タパは証言を拒否の構え
13日	各政党が暫定議会の追加議員を発表
14日	各政党が暫定憲法草案修正案を議会に提出 内閣は暫定憲法草案を決定、議会へ送付
15日	議会で暫定憲法草案を可決 暫定議会(330議席)が暫定憲法草案を可決、公布へ
16日	統一共産党は議会でのマオイストとの連合を拒否 米合衆国は暫定憲法を評価、インド、EUも表明 マオイストは暫定内閣で副首相を要求か?
17日	スバシュ・ネムワンが再度暫定議会の議長に選出 最高裁全体会議は暫定憲法に規定されている宣誓をしないことを決定 国連監視団がマオイストの武器、軍の管理登録を開始
18日	国連監視団がマオイスト兵士2,100人を登録 最高裁長官がコイララ首相に宣誓 マオイストのブラチャンダ議長はマオイストの地方政府、裁判所閉鎖を表明
19日	モリアリティ米大使はマオイストがインドから粗製武器を輸入して登録していると批判 ガッチャダル元水資源相がテライ諸民族の統一を呼びかけ
20日	最高裁判事が長官に宣誓
21日	政府は武装警察部隊を2月中旬までに郡庁および全選挙区に派遣を決定 シラハ郡ラハンに外出禁止令発令、マオイストとマデシ人民主権フロントが衝突
23日	マオイストのブラチャンダ議長がラハン騒擾のマオイストの誤りを謝罪
25日	マデッシー人権フォーラムはコイララ首相の対話呼びかけに同意
26日	駐ネ印大使がテライ騒擾に係るインドの関与を否定
29日	トリパティ商工供給相が政府のテライ問題対応に抗議して辞任
30日	治安当局はテライ騒擾を企図したとして旧王政派主要閣僚を逮捕

経済	
2日	ネパール商工会議所連合会（FNCCI）は電力セクターへの民間投資の動向を発表
3日	中国南方航空が1月22日より広州・カトマンズ間に就航
4日	インドのバイオ企業ダブルがマオイスト系労組の妨害でバネパの温室の操業を停止 第1四半期の貿易赤字額が412億ルピーに、赤字率は縮小に ネパール・インド電力交換拡大へ、送電線建設をNEAが発表 2006年の既製服輸出が2001年の1/3に減少、対米輸出低迷
5日	中央銀行が第1四半期の経済概観発表、歳入が20.3%の大幅増加
6日	東ネパールで運輸労働組合が無期限スト宣言 電力不足で週8時間（首都圏）、21時間（地方都市）の計画停電開始 中部テライのプトワールでトレードフェア開催
8日	2006年の航空便の外国人入国者が前年比2.3%増、28万人に 商工省は外国企業の投資に関し電子情報サービスを開始と発表 医薬品管理局は市場の20%の医薬品が違法なものであると発表
9日	マオイストがチリメ水力発電所の操業を妨害
10日	100ドルラップトップを教育の場に普及する計画 ミャグディ郡のトレードフェア開催
11日	中央銀行から資金注入を受けて再建途上のネパールバングラバンクが6.5億ルピーの債権回収 チトワン郡で観光フェア開催 電力庁は30億ルピーの電力再発行を発表、90%は金融機関を予定
14日	カトマンズで6日間にわたる情報技術博覧会開幕
16日	ネパール石油公社の未払いでインド石油公社は供給を削減 インド多国籍企業ITCの現地法人スルヤネパールが既製服縫製事業進出を発表
18日	前半期の海外出稼ぎ労働者が前年同期に比べて5.24%減少
21日	マオイスト系ホテル・レストラン労組がカブレ郡ドゥリケルの9ホテルを強制封鎖 産業局は05/06年度前期の海外からの投資が前年同期比80%減少と発表
22日	パンデ地方開発省は今後3年間で18,000kmの地方道路を建設すると発表
26日	情報技術委員会は7月中旬までに10ヶ所の地方テレセンターを建設すると発表
27日	テライ地方のゼネストによって東部、中部、首都圏のガソリン供給が逼迫
29日	

社会	
2日	カトマンズの一日当たり排出廃棄物420トンのうち62%のみ回収 ポカラで交通スト、観光客動けず チトワンで一角サイの密漁が再発
3日	サンクでスワスタニ・プラタ祭り始まる テライ地方で寒波による死者が9人
4日	ポカラのセティダムでひび割れが見つかる
5日	民営化に反対する水道公社の職員が抗議スト、王宮と首相官邸への供給停止へ
7日	マオイストがカスキの人気トレッキングルートで再度入山料徴収開始
9日	国家統一記念日プリトウビジャヤンティを祝祭日とせず
10日	首都圏の自殺者増加、353人/年へ
12日	民主テライ解放戦線のゼネストで市民の生活に影響
15日	マーグ・サンクランティ祭り始まる ネパール少年福祉機構は12人の少女をインドのサーカス団から救出
16日	マデシー人民主権フォーラムがテライ地方でゼネスト、市民生活に影響
17日	ネパール生活水準調査で61%の世帯がトイレ施設を持たないこと判明
19日	シラハ郡ラハンでマデシー人権フォーラムの幹部の逮捕をめぐり暴動、外出禁止令発令
20日	マオイストのラメチャップ郡地方組織が依然として地方行政を妨害 バルディヤ郡でマオイストが警察署を襲撃

21 日	ラハンの暴動がマオイストとマオイストの分派の抗争に発展 全国輸送業者のストですべての車両運行できず
22 日	ラハンの騒擾でテライ人民主権フォーラム 2 人死亡、60 人負傷
24 日	内閣は 500、1,000 ルピー札の新デザインを承認、国王に代わって仏像 電力庁は週 21 時間の計画停電を発表
26 日	シスドル住民が首都圏のごみの処分場への廃棄物持込を妨害
27 日	ラハンの騒擾が小康状態へ、サブタリ郡、バラ郡で続く
28 日	電力庁は 4・5 月の計画停電が一日 12 時間になる見通しを発表 कांग्रेस党中央委員のノナ・コイララが死去、79 歳
29 日	カトマンズの刺繍工場から 21 人の少年労働者を保護

経済協力・NGO	
3 日	ADB や日本が援助しているメラムチ水供給プロジェクトが中止の危機に直面 インドが洪水被害に 21 億ルピーの援助
4 日	UNDP は 2002 年から供与している野生動物救済援助を一時停止
5 日	ADB が主要都市の交通マスタープラン調査に援助
22 日	日本政府は制憲議会選挙支援を表明
23 日	世銀はとりインフルエンザ予防に 1,820 万ドル無償供与を決定
24 日	日本は制憲議会選挙用に 6 万個の投票箱を供与発表

3. b. ネパールのうごき (2007 年 2 月)

《政治》

国土の南（インド国境より）の平地をマデシュ（テライ）と呼び、それより北の山地をパルバトと称する。人をさす場合はそれぞれマデシー、パルバティとする。マデシュは穀倉地帯であり、また主要工業が立地している。そのマデシュがいま紛争の坩堝と化している。

マデシーの不満は、言語問題、政治行政的に発言力が弱い、二等国民との差別がある、国籍未取得者が 4 百万人いる、政府軍の雇用が差別されるととうとうあるようだ。政治的には国会の議席配分（205 選挙区）が人口比を反映していない点もある。行政的には政府の高級官僚がパルバティに多い。したがって、経済的にはパルバトを支えていながら、予算配分の恩恵にあずかれない。とどのつまりはパルバティに従属している劣等感がある。

今回の騒動はこのような歴史的地理的背景があるが、運動を主導している左翼政党がマオイストと連携していたところ、この連携を分断する動きがあったことも見逃せない要素である。それが、インドによるものか、既成主要政党によるものかまたは王室によるものか現時点では明確になっていない。初期の運動を主導した中道政党は舞台から排除された形である。

《経済》

マオイスト問題で停滞した経済は、マデシーの運動激化で物流が滞りさらに悪化の兆しがある。電力の供給不足は製造業の稼働を下げている。財務省は今期の GDP 成長率見通しを 5.0%から 3.8%に下方修正した。

今後マオイストが暫定内閣に参加すると、行政の停滞が予想され、経済の停滞が懸念される。インド経済の過熱によるインフレ懸念もさめておらず、貿易の半数以上がインドに依存するネパール経済への影響を、金融当局が有効な政策を実行するよう期待したい。主要産業である観光が上昇傾向をとり始めたことが明るいニュースである。

《社会》

マデシュ（テライ）はゼネストと外出禁止令の繰り返しで生活に支障が出ている。また、マオイストも和平協定後に解消を宣言した人民政府、人民法廷を地方で残しており、住民の恐怖が払拭されていないのが現状であるようだ。

《経済協力・NGO》

和平協定後、援助が大幅に増加している。アジア開発銀行は紛争時に破壊されたインフラの復旧のために各ドナーからの拠出を促している。このほか、食糧不足にさいなまれる住民への緊急食糧援助や、6月の制憲議会選挙に向けた選挙運営費用、和平構築援助が活発化しよう。

《今月の主な出来事》

政治	
3日	マデシー人民主権フォーラム（MJF）は内務大臣辞任を政府との協議の条件に挙げる
4日	サルラヒ郡マラングワでマデシー人権フォーラム（MPRF）が騒擾、3人死亡
5日	民主テライ人民戦線シン派（JTMM）がサブタリ郡で騒擾、3人死亡
7日	コイララ首相が連邦制を視野に入れた妥協案でテライ騒擾鎮静化を図る
8日	JTMM ゴイト派は首相提案に不満を表明 MJF は首相提案に対し 10 日間のゼネスト中止を発表
10日	MJF はシタウラ内相が辞任しない限り対話に応ぜず
11日	ジャバ郡で連邦共和フォーラム（FRF）がゼネスト、15人負傷 国家先住民婦人連合（NINWF）制憲議会の 47 議席を要求
12日	マーチン国連代表がマオイスト兵士の兵舎住環境が劣悪と発表
13日	JTMM シン派は首相の協議呼びかけに応ずると発表 CPN マオイストがカトマンズで武装闘争開始 11 周年記念集会
14日	インド軍が CPN マオイストとカシミールのラシュカレタイバの連携を発表
15日	ネパール先住民連盟がカトマンズでゼネスト
16日	国連政治ミッション（UNMIN）はマオイストの兵士 32,000 人と武器 3,300 の登録終了
17日	世界ヒンドゥ連盟（WHF）が世俗国家宣言に反対してデモ、サドゥ（行者）も マハシバラトリ祭でパシュパティ寺院に向かう国王の車列に投石
18日	第 57 回民主記念日に首相がメッセージ、国王も独自に王政を正当化
19日	国王の民主記念日メッセージに各政党は反発 UNMIN は政府に兵士・武器管理報告書を提出 MPRF は闘争再開を宣言
20日	日本政府は国連軍事監視団に要員派遣を表明
21日	国連は停戦後にマオイストが 155 人の少年を自軍に入れたと発表 国連、シタウラ内相はマオイストの営舎離脱を非難
23日	国連マーチン代表は兵士・武器管理報告書公表にあたり全てであるか明言できないと話す
24日	
25日	バイラワ等でマオイストと MJF が衝突、ナラヤンガトでは NFIN と プラチャンダ議長が統一共産党（CPN-UML）と共闘の可能性を示唆
26日	プラチャンダ議長は多くの武器が洪水で流失、火災で焼失と説明
27日	CPN-M 議員が国会議場に武器を携行、不規則発言も 政府は国王の財産を私的財産を除いて国有化を決定 マーチン国連代表は制憲議会選挙の延期につき懸念表明

経済	
1日	キャセイ航空はネパール乗り入れを計画
2日	メラムチ給水計画を総事業費 3.5 億ドルに縮小（1.14 億ドル減）
3日	ガソリンの輸入停止から 18 日に、プロパンガスも品薄に
5日	製造後 15 年たった自動車の登録を抹消して新車購入の場合は税の 33%を政府負担 既製の米国向け輸出が前年同月比 54%減少 中銀の経済月報によると今期 5 ヶ月の海外送金が 42%増加して 402 億ルピーに
6日	中国南方航空が広州・カトマンズ間に就航、週 2 便 テライの社会不安で牛乳生産者は 1 日 60 万ルピーの損害
7日	大型水力発電計画の開発件入札で 14 社が競合

8日	ネパール・バングラ銀行、ネパール・スリランカ商業銀行、NB ファイナンスが近々合併
10日	電力庁はアッパータマコシ水力発電計画を2008年着工、2012年完成と発表
12日	航空局は12の地方空港の改修を発表
13日	電力庁は1日7時間の計画停電を発表 今期7ヶ月の海外出稼ぎが前年同期比11.34%増加して104,606人に テライの社会不安で国家経済への影響が290億ルピーに、FNCCI発表
15日	財務省はGDP成長見通しを5%から3.8%に下方修正
17日	財務相は重債務者27社の80人の旅券を没収、フルバリホテルのアマティヤグループ他 ミドルマルシャンディ水力発電計画の完成はさらに遅れて2008年の見通し
20日	イエティ航空の国際線進出へ政府が認可意向
21日	中銀は年央金融見通しを発表、インフレ率6.6%
22日	ネパール・インド貿易協定協議始まる、関税外障壁が中心議題に

社会	
1日	国籍証明書付与が69郡で3百万人突破
2日	首相官邸の水道が下水と混じり汚染、5大臣が黄疸症感染
8日	テライ地方はゼネスト、外出禁止令が続き生活に支障が出る
9日	ネパール風肉の串焼き‘セクワ’200gが200本の喫煙に相当、医者ががんの警告
11日	ごみの最終処分場周辺の住民がごみの持込に抗議、街はいたるところにごみの山 極西部山地で雪、住民の生活に影響 ネワール語で授業する学校が首都圏に2校増えて4校に
14日	国際赤十字は1996年以来の行方不明者812人の氏名を公表 電力庁は首都圏の計画停電を週40時間に増加と発表 首都圏で62年振りに降雪、約45分間
16日	パシュパティ寺院でシバラトリ（シバの夜祭）、国王の車列に投石
18日	NEFINのゼネストで西部テライ地方の生活に支障 カトマンズでマオイストが一家誘拐、家に放火
22日	P・ラナRPP総裁の娘で故ディペンドラ皇太子の恋人デビヤニがインドで結婚
23日	ロウタハト郡でマオイストとJTMMが衝突、6人負傷
24日	インド領内2河川にダム建設、ネパール領内の10数カ村に洪水の恐れ
25日	ハヌマンドカ広場にホーリー祭の開始を告げる‘チール’（飾り柱）が立てられる 武装強盗団がカトマンズのカンケスワリ寺院から神像を強奪
26日	MPRFが再度ゼネストを実施、経済活動、生活に影響
27日	チトワン郡でバスが130m下の河床に転落し15人死亡、30人負傷

経済協力・NGO	
2日	今前期の外国援助が42%増加
7日	米国はマオイストが政権に参加しても援助を続ける旨表明
9日	世界野生動物基金（WWF）が5年間1千万ドルの無償資金協力 国連世界食糧計画（WFP）は東部テライの旱魃被害にあった40万人の農民に食糧援助
12日	06年4月の民主化以降の海外援助が250億ルピーに、印41億、日25億、独12億 米政府は07年度対ネ援助を26%削減、02年レベルに
14日	ECは07～10年の対ネ援助を15百万ユーロに決定
19日	日本政府はドゥリケル病院建設に18万ドル供与
22日	ADBは東部貧困住民を支援するために貧困削減日本基金から1百万ドルを供与
23日	世銀が高等教育向けに6千万ドルの無償資金協力
27日	各ドナーは紛争で破壊されたインフラ再建のため平和信託基金拠出に合意

4. 政策や法令について

今回はお休みします。

5. 本の紹介

今回はお休みします。

6. NPO「ヒマラヤの大地と風」の設立と参加のおすすめについて

NPOの活動への参加をお誘いします。モンタディオコンサルティングを立ち上げて2年になろうとしています。この間、カトマンズに事務所を構えてコミュニティ開発の案件形成や日本企業誘致を試みてきました。多くの皆様のご支援をいただきながら所期の目的に少しずつ形ができてきましたが、今般非営利特別活動法人を設立してさらに活動を拡大することとしました。

NPOのミッション、目的、基本方針、活動分野は別添に掲載しましたのでご参照ください。定款(案)は紙面の都合上次号に掲載します。当面の「NPO法」上の活動分野は、5. 環境保全を図る活動、9. 国際協力の活動、17. 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動、とします。登記申請は今年7月の予定です。

すでに具体化しているプロジェクトは、ネパールにおいては次項にあげる一村一品運動の促進、山間僻地の学校施設や保健所の建設、マイクロ水力発電所建設、ブータンにおいてはバイオガスプラントの建設が予定されています。

趣旨にご賛同いただき、活動をともにしていただける方はメールで会員になっていただく旨をお申し出ください。また本邦における本部または事務局を引き受けてくださる篤志家を募集します。ご協力をお願いします。

7. 一村一品アンテナショップ

ネパールの製品のご紹介と市場調査を兼ねて、4月下旬をめぐりにカトマンズに日本人観光客向けアンテナショップ1号店を開店します。まだ製品の開発がすすんでいませんが、当初は以下のものを販売する予定です。

- * 手もみ高級紅茶(ヒレ村)
- * ハーブティ“バルー”(ツクチェ村)
- * ハーブティ“ヒマラヤンローズ”(クムジュン村)
- * 鞭鞭そば茶(マルパ村)
- * ベール濃縮ジュース(テライ地方)
- * ラプシチャツネ(サガ村)
- * 食用菜種油(コカナ村)
- * エゴマ油(パルピン村)
- * そば粉(ツクチェ村)
- * ヒマラヤ絹“セリシンあかすりミトン”(ルブ村)

モンタディオコンサルティング
Monta Dio Consulting Japan

代表 菅沼一夫